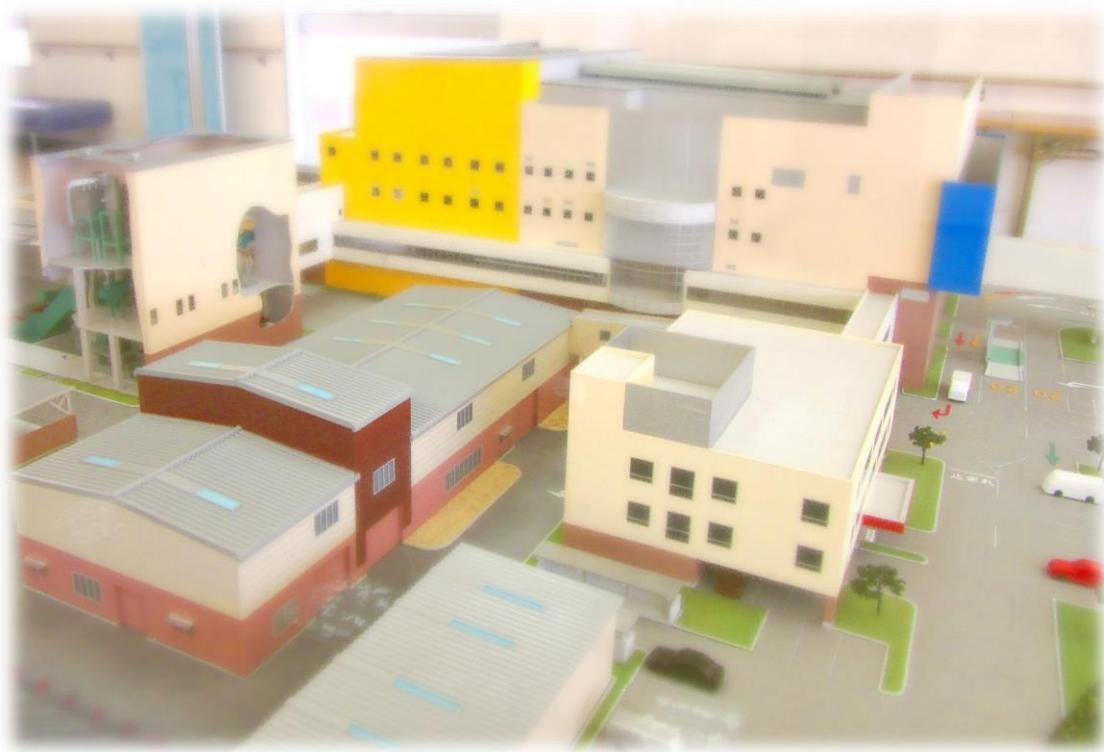


令和7年度 施設見学会 市政モニターア会議報告書



新居浜市清掃センター

新居浜市 企画部 秘書課

令和7年11月

(事業の目的)

新居浜市では、市政に関する市民の皆さんのお意見をお聴きし、市政運営の参考とするために、市政モニター制度を設けています。

今回の市政モニターミーティングは、参加希望いただきました市政モニターの皆さんに、市の施設見学や職員からの説明を通して市政への関心を高めていただくことを目的に実施しました。

(日 程)

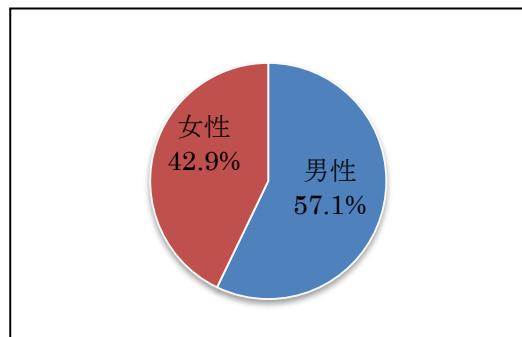
第1回：令和7年11月19日（水） 10時00分～11時45分

第2回：令和7年11月21日（金） 10時00分～11時45分

(参加者の状況)

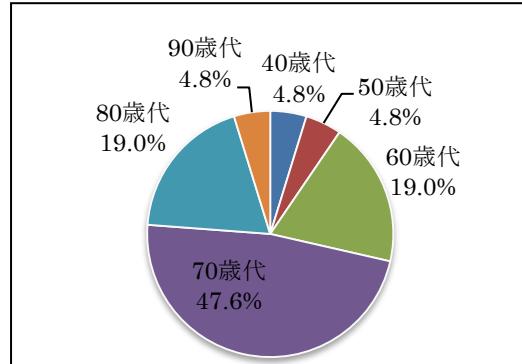
<性別>

| | 人数 | 割合 |
|----|-----|--------|
| 男性 | 12人 | 57.1% |
| 女性 | 9人 | 42.9% |
| 合計 | 21人 | 100.0% |



<年代別>

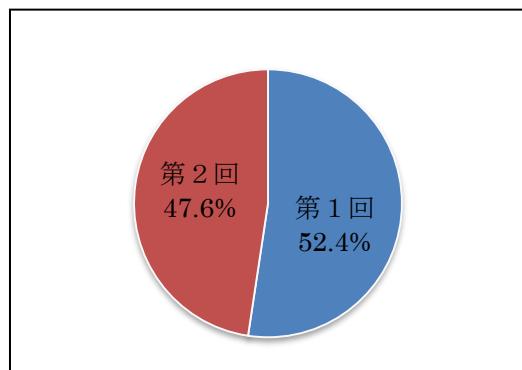
| | 人数 | 割合 |
|------|-----|--------|
| 40歳代 | 1人 | 10.0% |
| 50歳代 | 1人 | 20.0% |
| 60歳代 | 4人 | 20.0% |
| 70歳代 | 10人 | 30.0% |
| 80歳代 | 4人 | 20.0% |
| 90歳代 | 1人 | 0.0% |
| 合計 | 21人 | 100.0% |



※年齢は令和7年4月1日時点

<年代別>

| | 人数 | 割合 |
|-----|-----|-------|
| 第1回 | 11人 | 52.4% |
| 第2回 | 10人 | 47.6% |



※数値は、単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は一致しない場合があります。

(見学先及び内容)

新居浜市清掃センター（新居浜市観音原町乙 122-1）

平成 15 年 3 月から供用開始されている、市民の皆様の日々の暮らしに欠かせない「ごみ処理」を担う新居浜市清掃センターにて、ごみの収集から処理、資源化までの流れを職員の案内のものとでご見学いただき、市民の目線からのご質問やご提案をいただく。

1. はじめに

今回の見学では、第 1 回実施時に施設内で緊急対応が必要な事案が発生したため、第 1 回と第 2 回で実施内容に少々差が生じたことをお詫び申し上げる。

2. 施設概要と DVD 学習

[施設概要]

- ❖ 住 所 新居浜市観音原町乙 122-1
- ❖ 竣 工 平成 15 年 3 月
- ❖ 建設工事費 110 億 400 万円
(粗大ごみ処理施設、管理棟含む。)
- ❖ 延床面積 12,813 m²
- ❖ 処理能力 201 トン／日 (67 トン／日・炉 × 3 炉)
- ❖ 焼却炉形式 全連続燃焼式焼却炉・ストーカ炉
- ❖ 受入供給設備 ピット＆クレーン方式
- ❖ 通風設備 平衡通風方式
- ❖ 余熱利用設備 蒸気利用用途：蒸気タービン発電設備、場内冷暖房および給湯等
蒸気タービン設備（定格：1,950 キロワット）
発電利用用途 所内電力に使用し余剰分は外部へ売電
- ❖ 排水処理設備 プラント排水 · · · · · クローズドシステム
生活排水 · · · · · 合併浄化槽
ごみピット汚水 · · · · · 炉内噴霧
- ❖ 排ガス処理設備 ばいじん · · · · · バグフィルタ
硫酸化物・塩化水素 · · 消石灰噴霧
窒素酸化物 · · · · · 脱硝反応塔
ダイオキシン類 · · · · · 活性炭噴霧
- ❖ ガス冷却設備 ボイラ・水噴霧併用方式
- ❖ 集じん設備 ろ過式集じん器
- ❖ 煙突 鋼製外部保温内筒 コンクリート角型内筒 高さ 80 メートル
- ❖ 電気、計装設備 中央での集中監視制御、自動燃焼制御



新居浜市は「人と自然が調和した安心で快適なまちづくり」を目標に、循環型社会・資源循環型社会・ごみゼロ社会の実現を掲げており、新居浜市清掃センターは、1日最大201トンを処理できる全連続燃焼式ストーカ炉を3基備え、粗大ごみ施設も併設している。

また、平成21年から稼働するリサイクル推進施設では、プラスチック製容器包装の選別・圧縮、空き缶の選別・成形、瓶の色別保管、不燃ごみ処理などを行い、地域のリサイクル拠点として機能している。今回の見学では、ごみ処理の理解促進を目的に、職員による説明と現場案内を行う。

(1) 施設について (DVDより)

【第1回】

1 はじめに

大量生産・大量消費社会の進展により、大量廃棄が発生し、年々ごみ問題は深刻化している。地球環境への負荷を軽減し、資源循環型社会を実現するため、私たちはごみ問題の克服に取り組む必要がある。

愛媛県新居浜市では、ごみ処理問題を解決するため、平成9年5月に都市計画決定をし、翌10年9月には官学一体となって「新居浜市廃棄物中間処理施設研究委員会」を設立し、研究を重ねてきた。その成果として、最新技術を導入し、地域環境との調和に配慮した新清掃センターの建設が進められることとなった。

2 施設建設の背景

新居浜市は(当時)人口約13万であり、市内から排出されるごみは1日平均150トンに及ぶ。しかし既存施設は老朽化が進み、新しい施設の建設が強く求められた。新施設は環境保全、地域調和、熱エネルギーの再利用、サーマルリサイクルを重視した最新設備として計画された。

3 施設の概要

総敷地面積約2万8000m²に、以下の施設が建設された。

- ・ごみ焼却施設：1万2813m²、ストーカ式焼却炉3基（計201トン／日）
- ・粗大ごみ処理施設：2881m²
- ・管理棟：1804m²

焼却施設では発生熱を利用し、最大1950kWの発電が可能である。粗大ごみ処理施設はせん断破碎機、衝撃破碎機等で構成され、5時間当たり40トンを処理する。排ガス処理も徹底して行われている。

4 建設工事の進捗

用地造成は平成10年9月から12年3月までの3か年で完了し、平成13年2月に起工式が実施された。

(1) 基礎工事

掘削後、鉄筋組立、コンクリート打設の順で工事が進行した。平成13年9月には焼却施設の地下部分が完成し、巨大建屋を支える大口径コンクリート杭が支持地盤まで施工された。

(2) 構造工事

鉄骨組立が開始され、焼却ピット周囲はSRC構造により耐久性を高めた。煙突外筒も徐々に立

ち上がり、作業員が高所作業を慎重に進めた。

(3) 主要設備の設置

ストーカ炉は乾燥・燃焼・後燃焼の三段階を経て完全燃焼を行う方式であり、火格子は水平に組まれ、850°C以上で安定燃焼が可能である。

並行して粗大ごみ処理施設の建設も進み、平成14年3月には主要機器が設置された。

(4) ボイラ・炉壁等の施工

焼却炉上部では熱回収のためのボイラが施工され、炉内には耐火煉瓦を固定するスタッドが取り付けられた。煙突（高さ80m）もほぼ完成し、ボイラの耐圧試験も実施された。

5 竣工と施設の位置付け

平成14年10月4日に定礎式および火入れ式が行われ、地域の理解と協力により工事は順調に進んだ。ダイオキシン対策は法基準の10倍厳しい基準を設定し、クリアしている。

佐々木元市長は、環境先進都市を目指す新居浜市において、本施設を学習拠点として位置付け、総合的環境保全対策を備えた重要な施設であると述べた。

6 DVDとの違い（現状との差異）

DVDでは「ごみ量が増加している」と説明されていたが、現在は人口減少や市民の皆様の協力により、約3割減少している。以前は1日150トンの焼却量であったが、現在は約100トン、パッカ一車台数も1日約75台から約50台へと減少している。

[第2回]

1 はじめに

現代社会の消費拡大に伴い、ごみ問題は年々深刻化している。日常生活で避けられない「捨てる」という行為は、地域住民一人一人のライフスタイルに直結する課題である。

新居浜市清掃センターは、人と暮らし、自然に配慮したクリーンエネルギーセンターとして、適正焼却処理と資源化を進めている。

2 ごみの搬入と前処理

市内から収集されるごみは1日約100トンであり、搬入後は計量し記録される。プラットホームではごみピットに投入され、古紙は梱包し再生紙原料として再利用される。入り口にはエアーカーテンを設置し、臭気の外部流出を防止している。

3 焼却処理の仕組み

ピット内のごみは全自動クレーンで均一に攪拌し、ごみホッパへ投入される。焼却炉はストーカ式で、乾燥ゾーン→燃焼ゾーン→後燃焼ゾーンの三段階で完全燃焼を行う。摂氏850度以上の安定燃焼により、ダイオキシン類発生を最小限に抑えている。

焼却灰は灰ピットに運ばれ、愛媛県廃棄物処理センターで溶融処理される（※現在はセンター廃止により最終処分場に埋立処分）。

4 排ガス処理

環境配慮のため、以下の多段階処理が行われる。

↓排熱ボイラで蒸気として熱回収

↓減温反応塔で200°Cの排ガスを150°Cまで急冷

- ↓ 消石灰・活性炭噴霧により有害物質を吸着
- ↓ バグフィルタで微細ダストを除去
- ↓ 脱硝反応塔で窒素酸化物を無害化
- ↓ 凈化された排ガスは高さ 80m の煙突から放出される。

5 エネルギー利用

ボイラ蒸気はタービン発電機に送られ、最大 1,950 キロワットの発電が可能である。発生電力は施設内で利用し、低圧蒸気は冷暖房・給湯等に利用されている。

6 中央制御室

施設全体の運転を最新コンピュータで集中管理し、安全で効率的な運営が行われている。

7 粗大ごみ処理

粗大ごみは木製品と金属類に分別され、それぞれ破碎処理される。

木製品：せん断破碎後、焼却施設へ搬入

金属類：衝撃破碎機で細分化

鉄：磁力選別

アルミ：反発力（非鉄選別機）による選別

回収された金属類は再生工場で資源として再利用される。

8 市民への呼びかけ

ごみを減らすためには、無駄をなくし、物を大切にし、リサイクルを徹底することが重要である。快適な生活環境を次世代へ引き継ぐため、日々のごみ出しの見直しが求められる。

9 DVD の説明と現状との相違

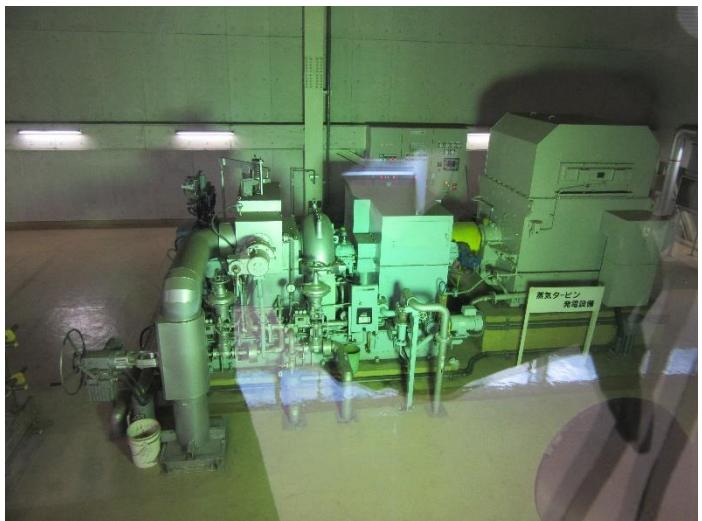
DVD は平成 15 年の制作であり、以下の点が現状と異なる。

1. リサイクル推進施設の設置（平成 21 年）：DVD 制作時には存在しなかった。
2. ごみ量は増加ではなく減少：市民協力や人口減少により約 3 割程度減少している。
3. 焼却灰の処理方法：かつては愛媛県廃棄物処理センターで処理していたが、同センター廃止により現在は最終処分場に埋立処理している。第 2 回 DVD では、ごみ収集から焼却、排ガス処理、発電、粗大ごみの破碎選別まで、現在の処理工程が紹介された。

3. 施設内見学

3-1 蒸気タービン発電機

蒸気でタービンを回転させて発電を行う施設である。蒸気タービンは 1 分間に約 9,800 回転し、その動力によって約 1950 キロワットを発電している。センター内で使用している電力は約 1,200 キロワットであり、売電量は約 750 キロワットとなっている。年間では一般家庭約 2,000 軒分に相当する電力を供給でき、金額にすると月額約 500 万円である。



現在、施設には3炉あるが、突発のトラブルに備え2炉ずつ稼働している。しかし、この2炉運転も近年はごみの量減少により難しくなってきている。毎年4月・7月・10月・1月には全炉停止期間を設け、定期点検を行っている。この期間は焼却を停止するため蒸気も発生せず、逆に電力会社から電気を購入している。

また、発電した電力は、施設内使用分以外を売電している。しかし、ごみ量の減少に伴い発電量も年々低下している。人口減少のほか、調理済み食品の普及による生活スタイルの変化、若年層の生ごみ発生量の減少などが要因と考えられる。

この施設はごみ処理施設であると同時に火力発電所としても国に登録されており、四国電力の火力発電所と同様の分類となる。そのため、2年に1度または4年に1度、国の立入検査を受け、安全確保の確認が行われている。

● 質疑応答

(質問) なぜ炉を停止するのか。

(回答) 定期点検のためである。また、連続運転による炉の耐久性低下を防ぐ目的もある。

(質問) 施設をより長く維持して使うべきだと思う。建設費の高さに、驚いた。

(回答) 運転に係るコストの方が割高になっている。長寿命化は選択肢の一つだが、20～30年使用した施設は運転コストや維持費が高くなりすぎて、新設を選択肢に入れるほうが財政的に有利な場合もある。最近では焼却施設に加え、災害対応機能など新たな役割も求められているため、長寿命化が費用面・機能面で不利になる場合もある。

(質問) 炉だけ更新することは可能か。

(回答) ほぼ不可能である。国・県では広域化が推進されており、愛媛県では松山市などが既に広域化している。東予地域（新居浜・西条・四国中央市）は未実施であり、今後の人口減少を踏まえると広域化も視野に入れ、検討すべき課題である。

(質問) 災害時に発電した電力は利用できるのか。

(回答) 送電線が無事であれば利用や売電は可能だかもしれないが、災害時は断線の危険がある。送電すると感電事故や火災などが発生する恐れがあるため、災害時は施設内利用に限られると考えられる。

(質問) 避難所に指定されているのか。

(回答) 避難所には指定されていない。

(質問) 蓄電設備はあるか。

(回答) 蓄電設備は備えていない。



3-2 中央制御室

中央制御室では、施設内の設備を集中的に監視・制御している。

クレーンは1回で約1.5トンのごみを掴むことができ、掴んで落とす作業を繰り返すことで攪拌し、燃えやすくしている。この作業は手動・自動で24時間行われている。

ごみはホッパに投入され、乾燥→燃焼→後燃焼の3段階で処理される。処理には約3時間要し、最高温度は1,850~1,900度である。高温で燃焼させることでダイオキシン類の発生を抑制し、発生した分は灰に吸着させ、埋立処分している。

3炉は順番に休ませながらローテーション運転している。

ガラス越しに見えるごみピットには、新居浜市内の1週間分のごみを貯留でき、容量は25メートルプール約9~10杯分である。

3-3 粗大ごみ処理施設

ガラス越しに見えるのが粗大ごみ破碎施設である。手前が木製品、中央が金属類のラインであり、重機で粗大ごみを選別し、コンベアへ投入している。

施設は建設から22年が経過し、大規模なメンテナンスを行っていなかったため整備の必要があった。現在、大規模改修工事を実施している。

3-4 リサイクル推進施設

リサイクル施設のストックヤードは左側のモニターに表示されている。瓶は色別に選別し、プラスチックは破袋機で袋を開いた後、人手で分別している。

二重袋は分別作業の大きな妨げとなり、プラスチック袋同士の場合は可燃ごみに回さざるを得ず、環境面で望ましくない。

右側のラインでは缶・瓶・ペットボトルを選別しているが、可燃ごみやプラスチックの混入が多く、こちらも手作業で分別している。

適切な排出方法として、

- ・プラスチックは水ですすぐ
- ・ペットボトルはラベルを剥がす
- ・電池は絶縁処理をして出す



など市民の皆様には小さな配慮をお願いしたい。

施設内の選別作業は高温（特に夏季）になることから、労働安全衛生法を順守するために気を配っている。

4. 質疑応答

■ 質問

旧清掃センターの煙害について、煙突の高さを前回より高くしたが、現在は煙害や住民被害はないか。

□ 回答

市のごみ処理の歴史は昭和30年から始まり、当初は城下に焼却施設が設置された。それ以前は各家庭や周辺で自由に焼却・埋立処理が行われており、ネズミやハエの発生、衛生上の問題が大きかったため、適切な焼却処理を行う目的で施設整備が進められた。

昭和44年、観音原に1日90トン処理の焼却施設が建設されたが、短期間で稼働停止となつた。この施設は煙害を引き起こし、新聞紙上でも取り上げられた経緯がある。

その後、ごみ量の増加と排ガス処理需要を受け、昭和53年から平成14年まで使用された旧施設が建設された。この旧施設の煙突は現在施設と同じ80メートルであり、質問の「前回より高くした」というのは観音原施設からの変更を指すと思われる。

ただし、旧施設は近代的な基準から見ると排ガス処理性能が不十分であり、現行施設とは高度な排ガス対策・ダイオキシン対策を備える点が大きく異なる。

平成15年施行の新法により厳しいダイオキシン基準が設定されており、現施設はこれに対応した構造となっている。

■ 質問

可燃物焼却時の有害ガス排出方法や基準、また新施設で有害物の排出量がどれほど減ったか。

□ 回答

排ガスには法律で定められた公害防止基準があり、近年は水銀も基準値に含まれている。現施設では法令基準値を一度も超過したことはない。

旧施設と比較すると、有害物質排出量は大幅に低下している。特に「ばいじん」（飛灰）は現施設では検出されていない。

施設では法令基準をさらに下回る自主基準（計画値）も設定しており、塩化水素など一時的に上回る可能性のある項目も平均すると基準値以下で推移している。

排ガス処理は、ろ過式集じん機、脱硝反応塔などを通して消石灰・活性炭を利用し、HCl・SO_x・ダイオキシン類を除去する仕組みである。

●公害防止基準

| 項目 | 計画値 | 法令等規制値 |
|---------|---|---|
| ばいじん | 0.02g/m ³ N以下 | 0.08g/m ³ N以下 |
| 硫黄酸化物 | 30ppm以下 (高質ごみ時:K値=0.07に相当) | K値=2.34以下 |
| 塩化水素 | 50ppm以下 | 430ppm以下 |
| 窒素酸化物 | 50ppm以下 | 250ppm以下 |
| ダイオキシン類 | 0.1ng-TEQ/m ³ N以下 (目標値:0.05ng-TEQ/m ³ N以下) | 1.0ng-TEQ/m ³ N以下 (ガイドライン:0.1ng-TEQ/m ³ N以下) |

(ng=10億分の1g)

(TEQ:毒性等価換算値)

■ 質問

施設の排ガス処理の仕組みについて。

□ 回答

現施設の焼却炉は3炉あり、そのうち2炉を稼働し、1日あたり58トンを焼却している。ごみは均質化のためピット内で攪拌される。

排ガス温度は850～970度で、ダイオキシン分解に必要な高温で処理される。その後ボイラ・減温反応塔により155度まで急冷し、ダイオキシン再生成を防止している。

余熱は蒸気タービン発電に利用され、約1,950kWの電力を場内利用と売電に活用している。

10種分別 区分一覧

| 分別区分 | ごみの種類 | 出し方 | 収集回数 |
|-----------|---------------|---|---|
| 再資源化されるごみ | 燃やすごみ | 台所ごみ、皮革製品、ゴム製品、プラスチック製品、木製品、資源にならない布類・紙くず | 袋 透明または白色半透明の袋 45L以下 週2回 |
| | 不燃ごみ | 小型家電製品、金属製品、陶磁器類、ガラス類などの不燃物 ※大きさが30cm以内のもの | 袋 透明または白色半透明の袋 45L以下 月1回 |
| | 布類 | 衣類(冬物は除く)、古布(タオルシーツ、ハンカチなど) | 袋 透明または白色半透明の袋 45L以下 月1回 |
| | プラスチック製容器包装 | プラスチック製の容器や包装 ※この表示があるもの | 袋 透明または白色半透明の袋 45L以下 週1回 |
| | びん・缶 | 飲食用びん(無色透明、茶色、その他の色) 飲食用缶、葉子缶、スプレー缶 (化粧品や殺虫剤など)、カセット式ガスボンベ ※穴あけは不要 | 箱 色別にコンテナへ バラでネットへ 月2回 |
| | ペットボトル | 飲料用、酒類用、しょうゆ・酢など調味料用のボトル ※この表示があるもの | 袋 バラでネットへ 月2回 |
| | 古紙類 | 新聞(折り込みチラシを含む)、雑誌・雑がみ、ダンボール、飲料用紙パック | 箱 種類ごとにひもでしばる 月2回 |
| | 有害ごみ | 乾電池・水銀式体温計、蛍光灯 | 箱 種類ごとにコンテナへ 年4回程度 |
| | 大型ごみ ※有料収集 | 大きさが30cm～180cmの家具、家電、寝具、自転車など | 1回につき10個まで 玄関先等に出す 戸別収集 (申込み制) |

化前は全国平均より約150グラム多かったが、有料化後は大きく減少し、令和6年には900グラムを下回った。

直接搬入量は有料化を境に3～4割減少し、収集ごみも増加していない。

■ 質問

現在の分別方法と、その理由について。

□ 回答

市では10種16分別を実施しており、「ごみ分別大辞典」に詳細を掲載している。

収集されるごみの約82%が焼却対象であるが、資源化施設、粗大ごみ処理施設、資源業者への搬入分もある。

施設直接焼却量は令和2年度の3万4千トンから、現在は3万トン程度に減少している。

■ 質問

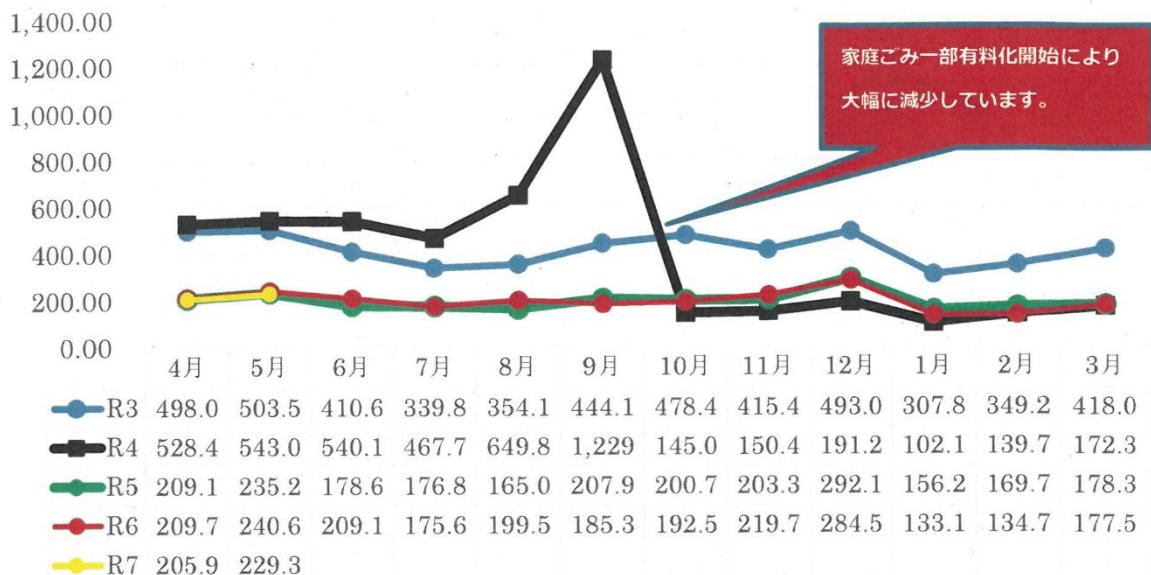
ごみ有料化による利用者・ごみ量への影響。

□ 回答

年間のごみ量はおよそ4万トン弱で、平成27年の4万7千トンから昨年は3万7千トン未満と、10年間で1万トン減少している。

一人1日あたりの排出量は、有料

一般家庭持込ごみ重量（清掃センター）の推移 単位：トン



■ 質問

分別・再利用に関する課題やコストについて。

□ 回答

当日、施設内で発生したボヤ火災は、充電池の短絡が原因とみられる。こうした事故は全国的にも多く発生しており、施設の長期運転停止に至る事例もある。安全確保のため、電池類の分別徹底が重要である。

また、ごみ処理は「燃やして埋める」方式では施設・埋立地が拡大し続けるため、資源化を強化し施設規模を抑える方向にある。

清掃センターの維持だけで年間約10億円を要し、ごみ量が減少しても経費は減らないため、市民負担軽減には施設のコンパクト化が重要である。

■ 質問

清掃センター更新スケジュールについて。

□ 回答

現施設は平成15年完成で、最低30年間（令和15年まで）使用する計画である。

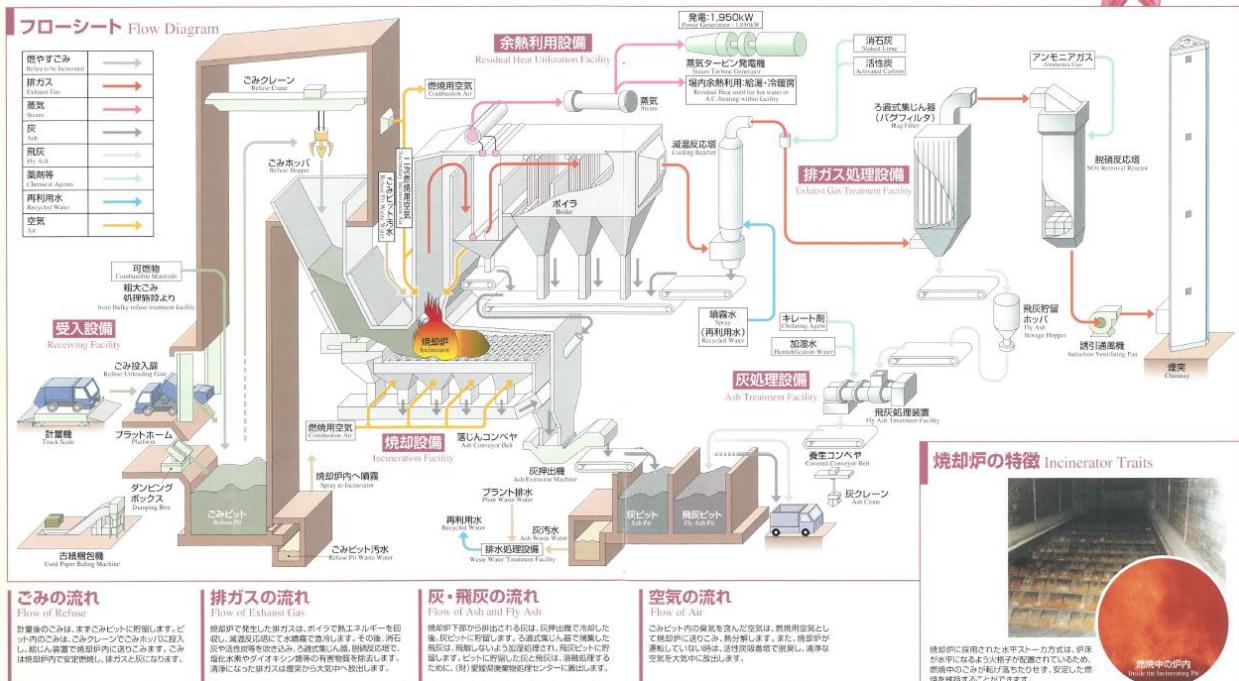
更新時期は未定であり、西条市との広域化・集約化など、規模拡大によるコスト削減策も検討されている。

■ 質問

自治会活動で生じたごみ処理の無料扱いの徹底について。

□ 回答

自治会からの申請は把握しており、自治会長用の便利帳等でも周知している。減免での持込も一定数あり、徹底されていると考えられる。



■ 質問

不燃ごみ・有害ごみの処理方法について。

□ 回答

不燃ごみはコンベアで手選別し、小型家電・資源物を除去した後、破碎処理や埋立処分を行っている。

リチウムイオン電池等の危険物は、有害ごみへの分類変更を検討している。

■ 質問

経費計算に設備投資は含まれているか。償却費の扱いはどうか。



る。全国的には経費の一体管理を進める考え方が広がっている。

□ 回答

設備投資は経費に含まれていない。

本来であればご指摘のとおり償却費を積み立て、新施設建設に備えるべきだが、市としては積立を行っていない。グラフでも示されているように、改良・建設の時期に経費が跳ね上がる構造となっている。

■ 質問

完全民間によるごみ処理施設運営はどうか。

□ 回答

単独市町では規模が小さく、コストが高いため、産業廃棄物と一体処理する民間施設が全国では見られるが、新居浜市規模での導入事例は多くない。三豊市の民間施設も形態が異なる。

■ 質問

ごみ焼却と CO₂ 排出権の関係、メリットの有無について。

□ 回答

焼却施設は CO₂ 排出源となる側の施設であるが、バイオマス部分もかなりある。

廃プラは資源化を進める方向であり、将来施設ではさらに削減が必要になる。

発電はバイオマス発電に分類され、CO₂ 削減に寄与する面もある。また、二酸化炭素を活用する CCUS 技術の研究も進められているが、実用化はこれからである。

最も重要なのは、燃やすごみの量そのものを減らすことが CO₂ 削減につながる。そしてどうしても燃やさなければならないごみはサーマルリサイクル。熱を回収して、それを多方面に利用しようという考えである。

■ 改善提案

計量カード読み取り機は位置が遠く、車を寄せるとタイヤを擦る不安がある。読み取り機の位置改善はできないか。また、金属リサイクルの収益について金額を教えていただきたい。

□ 回答

計量器は 4 トン車までの搬入を想定して設計されており、車両の大きさの中間点を基準に高さが設定されている。そのため軽自動車では読み取り位置が高く、不便をかけている。改善点として認識しており、今後の検討課題とする。

ただし、機器の交換には多額の費用が必要である。また、当施設は稼働から 20 年以上が経過しており、次期施設更新も見えてきている現在、可能であれば、更新に合わせて改善を行いたい。

——提案者からは、読み取り部に手が届くよう延長棒のような道具を貸し出す簡易な方法の提案があり、検討するとの回答があった。

金属リサイクルの収益については、アルミについては約 900 万円、ペットボトルについては約 2,000 万円、一方古紙類は数千円。当施設が市内業者に直接売却している品目は 11 種類あり、破碎鉄、マットレススプリング、破碎アルミ、スチール缶プレス、アルミ缶プレス、新聞雑誌、段ボールの梱包製品、鉄スクラップ、鉄プレス、コードケーブル類などで、年間大体 5,500 万円前後の収入になる。

■ 質問

19 日に火災が発生したようだが、原因はリチウムイオンバッテリーではないかという話を聞いた。不燃ごみではなく、有機ごみの区分に変更すれば今回のような火災は防ぐことができたのでは。

□ 回答

他市の事例なども踏まえ、昨今のリチウムイオン電池の事故を受けて、年度途中であるが、令和 8 年 1 月から現在の「不燃ごみ」のカテゴリから「有害ごみ」のカテゴリに移すことを進めし

ているところである。新居浜市としては可能な限り事故を未然に防止できるよう、収集体制、運搬体制の見直しを行っていく。

■ 質問

動物の死体はここではなく、火葬場での処理になるか。

□ 回答

飼い猫、飼い犬の他、公道上で車に轢かれた動物の死体なども清掃センターにて処理している。焼却施設にある倉庫で冷却しておいて、一般ごみとともに焼却するというような形になり、骨を拾ったりすることはできないため、持ち込まれた際に骨を拾うなどの希望がある場合はペット霊園の案内などを一言添えるようにしている。なお、処理費用は300円／1体である。



(参加者アンケート)

市政モニター会議に参加いただいたモニターの皆さんに、感想やご意見をうかがい、今後の参考とするためにアンケートを実施しました。

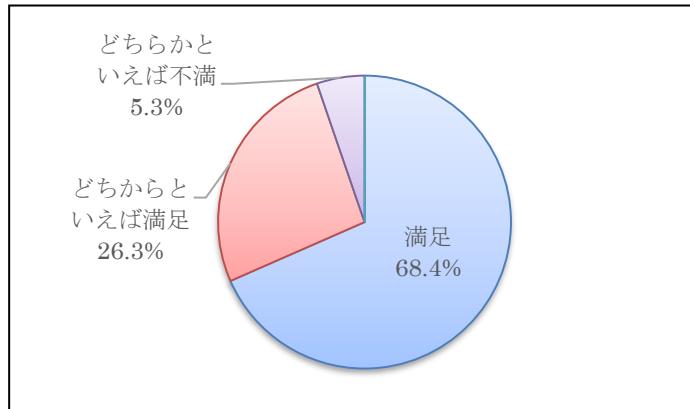
〈アンケート概要〉

| | |
|--------|---------------------------|
| 調査対象者 | 市政モニター会議施設見学会参加者 21人 |
| 調査期間 | 会議実施日～令和7年12月5日（金） |
| 調査方法 | 会議実施時にアンケート用紙を配布し、後日郵送で提出 |
| 回収数（率） | 19人（90.5%） |

〈調査結果〉

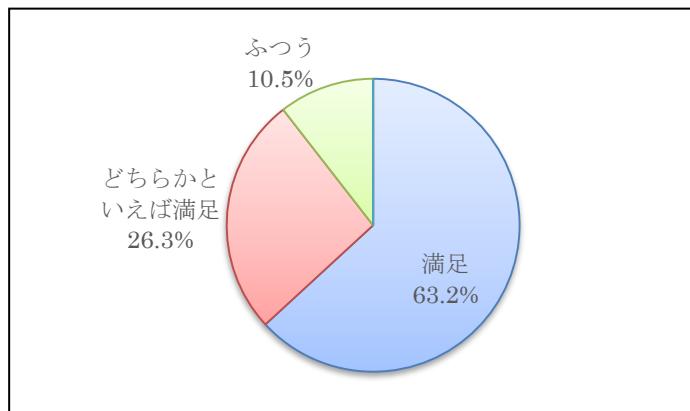
Q 1. 今回の施設見学のテーマや見学先の設定についてどう思いましたか。5段階の満足度でお答えください。（1つ選択）

| | |
|---------------|-----|
| 1. 満足 | 13人 |
| 2. どちらかといえば満足 | 5人 |
| 3. ふつう | 0人 |
| 4. どちらかといえば不満 | 1人 |
| 5. 不満 | 0人 |
| 合計 | 19人 |



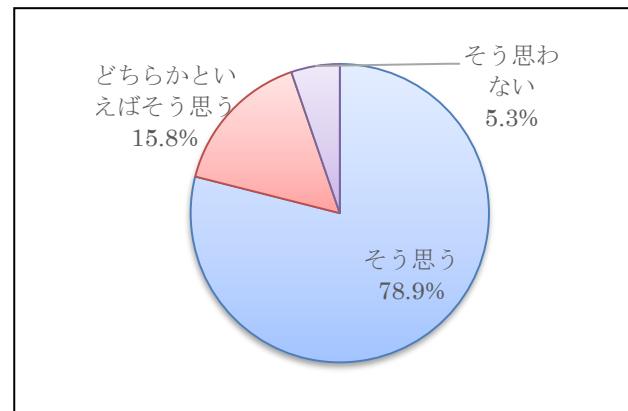
Q 2. 今回の施設見学の内容や職員からの説明はいかがでしたか。5段階の満足度でお答えください。（1つ選択）

| | |
|---------------|-----|
| 1. 満足 | 12人 |
| 2. どちらかといえば満足 | 5人 |
| 3. ふつう | 2人 |
| 4. どちらかといえば不満 | 0人 |
| 5. 不満 | 0人 |
| 合計 | 19人 |



Q 3. 今回の施設見学に参加して、市の取り組みに対する理解や関心が高くなったと思いますか。（1つ選択）

| | |
|-------------------|-----|
| 1. そう思う | 15人 |
| 2. どちらかといえばそう思う | 3人 |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 0人 |
| 4. そう思わない | 1人 |
| 合計 | 19人 |



Q 4. 今回の施設見学会に参加しての感想やご意見を自由に記入してください。（自由記入）

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

■ 施設の印象・分別への意識

- 立派な清掃センターを間近で見学できて良かったです。ごみが毎年減っているという話は予想外でした。分別の成果だと思います。ただ、分別をきちんとしていない市民も多いのが事実で、もっと周知できればと思います。
- 新居浜市のごみ処理の工程がよく分かりました。素晴らしい処理場でした。
- 清掃センターに通常捨てられない物を持って行くことはありますが、内部を見るのは初めてで興味深いことが多かったです。屋内だけでなく構内全域にごみがなく、新居浜市で一番きれいな現場だと思いました。対象がごみである分、全員がきれい意識を徹底していることの表れだと感じ、見事でした。
- 新居浜市清掃センターの素晴らしさを実感しました。排ガス処理による有毒物質の除去、余熱発電、リサイクル施設や粗大ごみ処理による資源化など、環境保全と資源循環を目指した体制を説明していました。私たちも日頃のごみにもっと関心を持ち、分別やリサイクルをきちんと行うべきだと思います。3R推進をより多くの人に知ってもらい、協力して住みよい新居浜市を築ければと思います。
- 清掃センターの内容がよく分かってよかったです。ありがとうございました。
- 市のごみ事情がよく分かり良かったです。
- 昭和30年から分別の量と収集の分別が変わって、曜日や量、出し方、大型ごみなど有料になって、個々に意識できるようになったことでごみの量も減少してきたのだと思います。リサイクルも多種に分けるようになって良くなっています。

■ 工程・処理方法について学んだ点

- 大規模な処理施設に驚きました。それによって収益もあることを知りました。プラスチックの分類を手作業で行っており、特に夏場は大変だと思います。ナイロン袋の二重包装が大きな負担になることも知りました。知らない人も多いと思いますので、きちんと守って出したいと思います。
- 以前の清掃センターには剪定ごみ等を持ち込んでいましたが、新しいセンターがどうなっているのか興味があり参加しました。新しい施設はきれいで近代的で、市全体から出るごみの分別、SDGsへの取り組み、発電機能など素晴らしい内容でした。日々大変な業務をされている皆さんに感謝します。

■ 経営・運営への意見

- 施設についての説明は良かったが、運営についての説明は不十分であった。単独で建設費も含めて運営することが望ましい（現在のコスト内で）。経営として考えるべきであり、建設時の費用捻出が見えない。このままでは赤字となり市債発行になるのではないか。
- プラスチックごみのストックヤードからの行き先について気になる。世界から持ち込まれ焼却されているのではないか（インドネシアの例など）。住友化学が研究しているバクテリア処理にも大きな期待を持っている。
- 市内の小学生（4年生）は毎年見学しているとのことですが、社会人、シニアなども見学会を開催してはいかがでしょう。（公民館、サークル単位で）現場を見ることによって廃棄物の削減や資源循環の意識が深まると思います。

■ 時間・進行に関する意見

- 今回も大変勉強になりました。昼から仕事があったため、見学会が予定よりオーバーし少し焦りました。多少は仕方ないと思いますが、時間厳守でお願いできればと思います。
また、見学場所や駐車場の関係もあると思いますが、現地集合・現地解散のほうが、時間オーバーしても途中退席しやすいため良いのではないかでしょうか。車に乗れない方のみマイクロバスで移動する形の方が良いと思います。市の方はとても感じが良く、安心して参加できました。火災が大事に至らず良かったです。清掃センターの皆様、本当にご苦労さまでした。
- 予定外のトラブルで、ゆっくりと施設を見学したり説明を聞く時間がなくなり、少し残念でした。ただ、職員の皆様が日々さまざまな対応に追われているのだと感じました。私も何度か持ち込みでお世話になりましたが、時には厳しい指導も含め丁寧に処分方法を案内してくださり、効率よく処理するためだと改めて理解しました。職員の方の座学をもう少し聞ければ良かったと思います（時間をかけて資料を作ってくださっていたので）。有意義な見学でした。ありがとうございました。
- 時間がタイトで、もっと現地でゆっくりできればよかったです。集合は応接会議室ではなく、バスに直接集合で良いと思います。質疑応答の時間がもっとある方が良いと思います。

■ スタッフ対応への評価

- 初参加で不安でしたが、市の担当者の方が親切に対応してくださり、安心して見学することができました。質疑応答では、自分の意見（改善案、リチウムイオンバッテリーの区分変更、資源ごみ売却額など）も発言でき、市政モニターとして役割を果たせたと感じます。他の参加者の発言が少なかったのは残念でした。メール登録モニターには、アンケートはメール返信形式のほうが楽だと思います。今後とも環境整備のためご尽力願います。
- お忙しい中、見学の機会をいただきありがとうございました。自分でごみ出しに行ったことがなく、初めての清掃センターでした。清潔感があり、においや音も気にならず、街中のオフィスのようで驚きました。日頃からスタッフの皆さんのが丁寧に仕事をされていることがよく分かり、感謝の気持ちでいっぱいです。「ごみ分別大辞典」を活用し、分別をしっかり行おうと思います。

Q 5. 来年度以降の施設見学会で、設定したら良いと思うテーマや見学先があれば記入してください。(自由記入)

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

- 防災センター
- 市役所探検、まだ知らない場所がたくさんあるので。
- 新居浜市史に関連する施設に見学に行きたいです。

- ・別子山支所の見学（山の中をどうしようとしているのかについて）
- ・去年は給食センターの見学にはずれたので、初めての人を対象に施設見学希望。
- ・新居浜市発展の根源となったマイントピア別子の坑道。
- ・大島の再開発期待します。
- ・上下水道設備
- ・住友と別子銅山の歴史
- ・「健康」をテーマに運動施設の見学があればいいなと思います。誰にでも使える施設、誰でも参加できるレッスンも教えてもらえると嬉しいです。
- ・生徒数の少なくなった学校の様子を知りたいと思います。

～ご協力、ありがとうございました～



©NPO 法人新居浜まちゅり隊